

二 中 の 風

責任者 R3 No7

校長 中島綱紀

体育大会練習に思うこと・・・

体育大会本番の内容はもちろんですが、私はそこに至る練習の日々の中で、後輩たちに応援団演武やソーラン舞踊の指導を頑張ってきた三年生たちをととても愛おしく思い、ほめてやりたいのです。

”おとなしい”と言われて続けてきた今年の三年生。練習では、怒ることもなく、怒鳴ることもなく、優しく丁寧に一二年生をリードしていました。

「どう言えば思いが伝わるのか」「どうすればみんなが動いてくれるのか」。三年生たちはみんなで悩み、葛藤し、時には対立もあったようです。それでも、卒業した先輩たちがそうだったように、友達を信じて一二年生たちと本気で向き合っ思いを伝えて指導していました。この指導するという時間を通して三年生は「二中の伝統を伝える者」に成長します。今年も一二年生たちは、『二中魂』を三年生から確かに引き継ぎました。



スクールカウンセラー

友達から言われたことが気になって勉強できない。自分でもわからないけど朝から起きられない。意味もなくイライラしてしまう。青春真ただ中で立ち止まってしまう中学生。そんな生徒たちに寄り添ってくれる人が臨床心理士の前田晋平先生です。水曜日ですが、先生は希望する生徒や保護者とじっくり話をしてくれます。心の奥で絡んだ糸をゆっくり優しく解いてくれます。カウンセリング室から出てきた生徒は、優しい笑顔になっています。ここはちょっと疲れた生徒が立ち寄り二中の心の陽だまりです。



何を語るか5つの石臼たち



20年前、二中には元気いっばいの馬淵校長がおられました。「二中を日本一の学校にする。先生たちは心を一つにして生徒たちを鍛えて、ほめて、伸ばしていこう。」が口癖でした。馬淵校長の発案で、高校等入試等に臨む生徒たちのために、先生たちと保護者で紅白餅をつくという行事が始まったと聞いています。石臼たちはその歴史の証人です。

校長室に並ぶ馬淵校長の写真が訴えます。「おい中島校長、今年も餅はつかなくていいのか?」と。「いやー、コロナがですね・・・」と言い訳をします。石臼さんごめんなさい。